

# 和

n a g o m i

# 和歌山の林業

特集

## 和歌山の林業

【木を伐る】【木を使う】【苗木作り】【次世代へつなぐ】

知事対談

榎本長治 × 宮崎泉

聖地リゾート!和歌山  
雑賀崎の海辺

わかやま“ツウ”巡り旅  
紀伊路(日高エリア)

well-being 和歌山  
南紀オレンジサンライズ FC

掛け合わせの妙を探せ!  
高校生 × 地域活動及び商品開発プロジェクト

伐採跡地に植えられたスギの苗木

# 和歌山の 林業

和歌山の古い国名である「紀の国」は「木の国」が転じたものとも

言われるほど、太古の時代から木とともに歩んできた。現在は県土の

約4分の3を森林が占め、その資源の豊富さは全国でも上位に入る。

深い谷と急峻な斜面が連なる環境で育つ紀州材は、色合いが美しく、

粘り強く長持ちする木として知られる。

良質な紀州材を次世代へ引き継ぐため、木を伐って、使い、植えて、

育てる「循環型サイクル」で、和歌山の山を守っている。

# 匠の「索張り」技術と最新AI技術で、 急峻な山から紀州材を運び出す 紀州の新しい林業



## 和歌山の林業 木を伐る

和歌山県発祥の「新たな架線集材システム」を活用し、架線集材を行う。

架線式グラップルは、2本の爪が付いた機器で、山に張った架線を通り、木を荷下ろし場まで運ぶ。

## 山の循環のため木を伐り出す新技術の開発に挑戦し、 省力化と安全性を両立させる



①「新たな架線集材システム」は油圧集材機と架線式グラップルをシステムラジコンで無線操作する。②AIを使用したシステムの開発も、架線を張る作業から始まった。

現在は、伐った木をAIが自動で感知して自動で集材を行うことが可能なシステムの開発にも着手している。伐った木のある場所をAIが発見し、自動で掴み、木を搬送する。システムラジコンを操作する人員も不要となり、より省力化が進む。ただし、作業範囲は架線の配置によって決まるため、まず人の手で現場全体をカバーできるように架線を張らなければならない。代表取締役の中井稔さんは「日本は急傾斜の山が多く、架線集材技術は必要不可欠。架線を張る技術がなければ機器類が発達しても活用できません。山の地形

や集材作業の効率、伐り出した後の運搬方法まで考慮するため、長年の経験が必要です」と話す。中井さんは自身の持つ架線集材技術を後進に伝える指導も行う。技術革新と熟練技の継承に取り組み、新しい林業の形を全国へ広めている。「先進的な技術研究は大変だが、技術革新が進み、省力化ができれば木の伐り出しが進みます。戦後に植えた木は、伐り時を迎えている。できるだけ早く伐り、次の世代の木を育てたい。伐った後は苗を植えることを山主に提案し、山の循環が進むよう尽力しています」（中井さん）。



### Column

#### 【新たな架線集材システム】

次世代型架線集材の実用化へ向け、架線式グラップル（左写真）を用いて木を掴んでから搬送までを自動化するシステムをイワフジ工業（岩手県）と中井林業が協力して開発。AIを活用した作業の効率化を目指す。安全性・生産性の向上と軽労化のため、技術開発に取り組んでいる。

山は、木を伐って、苗木を植えて、育てることで循環し、持続可能な形で守られていく。和歌山県は急傾斜地が多く、先人たちが植えた広大な人工林から木を伐り出すため、山にワイヤー（架線）を張って木を集める架線集材形態を構築してきた。今、その技術を発展させる取り組みが進んでいる。

最新技術の導入を進める目的は、急峻な地形でも安全で効率的な作業ができ、山の循環がより進むためだ。3代にわたり木を伐り、架線集材を行う中井林業は、2017（平成29）年からイワフジ工業と連携し、現在に至るまで集材技術の革新に向けた技術の開発・導入に注力する。研究が実り、2021（令和3）年にシステムラジコンで油圧集材機と架線式グラップルを無線操作する「グラップル付集材機械」の実用化に成功。従来は伐った木の場所まで作業員が向かい、木に架線を掛け、巻き上げて荷下ろし場へ搬送する作業を行っていた。この機械があれば作業が減り、3〜4人必要だった作業員が2人でも可能になり生産性がアップ。さらに木に作業員が直接触れることなく無線操作できるため、安全性も高まった。

## 木造化

### 公共建築物利用

# 高野山こども園

建て替えを機に、世界遺産・高野山の町並みに調和させるとともに、こどもたちが木に親しみながら成長する環境を目指して木造化。県内の製材所から調達した紀州材は塗装を抑え、木の風合いや経年変化を楽しめる木造園舎とした。

#### 問い合わせ先

住所 / 高野町教育委員会  
電話 / 0736-56-3050



木の温もりを裸足で感じられるよう床暖房を採用。



①クラス名に合わせてデザインした木製看板を設置した。②室内には木の香りが漂い、五感を刺激する。③広さは848平米で、最大75人が利用可能。

## 地産地消型の木材活用は、森林機能の維持・促進や地球環境保全にも貢献する



宿泊施設は床やドアなど内装にも紀州材を使用。



## 木質化 民間非住宅建築物利用 ハピネスちかつゆ 夢

インバウンド利用が多いエリアの宿泊施設と食堂。和歌山の風土をより感じてもらえる空間作りのため、紀州材をできる限り活用。特に良質な材料を目立つパーツに使用するなど、紀州材の印象が残るよう木材選定に工夫を凝らした。

#### 問い合わせ先

住所 / 田辺市中辺路町近露 931  
電話 / 090-3055-3702



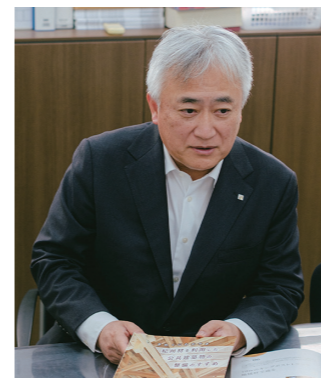
①大きな木製看板が利用者の目を引く。②窓からは季節ごとに表情を変える木々が見える。③食堂のテーブルセットも紀州材で制作した。



粘り強さや耐久性、  
美しさを持つ紀州材は  
多くの建築物に選ばれる

### 和歌山の林業

# 木を使う



「紀州材を確実に確保するため、調達計画作りも支援します」(城本さん)。

和歌山県内の温暖多雨で急峻な地形から産出される紀州材は、住宅や公共施設、民間の非住宅建築物等で利用される。建築物の木造化に取り組む和歌山県建築士事務所協会会長の城本章広さんは「紀州材は年輪が緻密で木目が細かく、粘り強さもあり、高い強度を持っています。その特性は県が行う各種試験や測定結果で証明されています。見た目の美しさもあり、評価が高い木材です」と話す。同じ寸法の木材と紀州材を比較すると、強度は上回る性能があるものが多く、構造材に適しているという。

木材は炭素を長く蓄える性質を持つため、建築物に利用すれば、大気中へのCO<sub>2</sub>の放出を防ぐ「カーボンストック」としての役割も期待ができる。さらに、鉄筋コンクリート造や鉄骨造に比べ、製造から利用・廃棄までに排出されるCO<sub>2</sub>を抑えられるという。伐つて、使つて、植えて、育てるの過程でCO<sub>2</sub>排出量が少ない木材は、脱炭素社会に貢献できるサステナブルな建築資材なのだ。

紀州材は県内で生産、製材、加工された木材であり、地元での活用が進めば、資材輸送による環境負荷も抑えられる。山から紀州材を伐り出し、建築物の木造・木質化を促進することは、環境にやさしく、森林や地球環境を守ることにつながる。

#### 問い合わせ先

和歌山県建築士事務所協会  
住所 / 和歌山市ト半町38番地  
建築士会館3階  
電話 / 073-432-6539





冬場の寒さに適応させるためにストレスを与えて「順化」させる  
そのため出荷直前の苗木は全体が褐色に変化する。

## 種子の選抜や育成環境の管理で、 コンテナ苗の増産を進め、健やかな山の基盤を作る

1ヘクタールに2500本ほど苗木が必要で、スギやヒノキは発芽率が20〜30%と低いうえに、発芽から出荷まで約2年を要するためコストがかかります。高品質な苗木を安定して育てるには技術革新が必要だと考え、コンテナ苗の生産に力を入れ始めました」と語る。コンテナ苗は根が土に包まれた状態で育てられる苗で、山にそのまま植えられる。苗を畑から掘り起こす時に根が切れる課題を解消し、根が真っ直ぐ均等に伸びて育つため植栽後に活着が良くなるメリットがあり、安定した生長が期待できる。そのほか、乾燥に強く通年植栽が

可能であること、小さい植穴で植えられることなど、コンテナ苗は植林の低コスト化に重要な役割を果たす。「森林は土砂災害を防ぐなど多くの役割を持っています。山の若返りのため、林業従事者が一体となつて循環型林業を目指したい。ただ人手不足や高齢化は深刻な問題です。人材の若返りや定着のため、技術の追求だけでなく作業者にやさしい生産体制も模索し、新しい林業を目指していきます」(井内さん)。

問い合わせ先

和歌山県山林種苗協同組合  
住所 / 和歌山市湊通丁南4丁目18番地  
和歌山県森林組合連合会内  
電話 / 073-424-4351

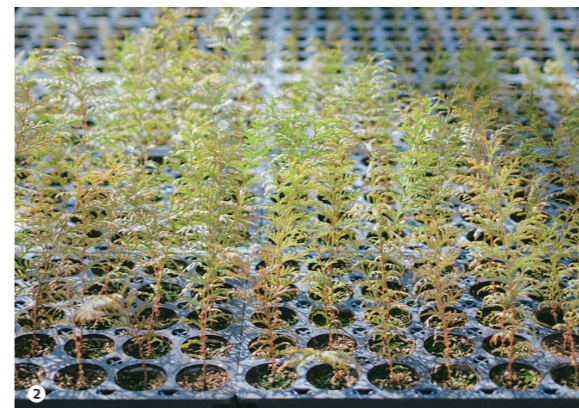
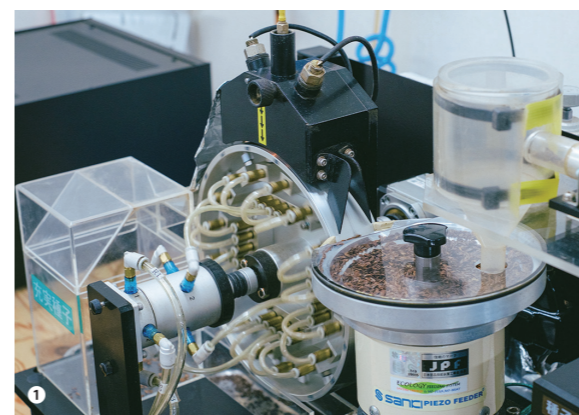


①土に分解される非石油系の不織布で作られた容器で育て、根の様子を確認や植え替えの省力化を行う。  
②コンテナの重量チェックを行うなど水、光、温度の生育環境を数値で管理し、苗の生育を安定させる。

## 生産設備の改良など、 高品質な苗木作りに取り組み、 循環型林業を支えていく

和歌山の林業

# 苗木作り



①充実種子選別装置を使うと、発芽率90%以上の種子が精選できる。②発芽後に一定期間育成した苗木をコンテナへ植栽する。



「山の環境保全と林業の振興に必要な健全な苗木を育てていきたい」(井内さん)。

## 循環型林業を支えるうえで欠かれないのが苗木の生産だ。

山に植える苗木の一本一本が、数十年後の森林を作るからだ。山の更新を支える苗木を安定して供給するため、和歌山県山林種苗協同組合の理事長・井内優さんは、同組合員の技術向上や経営の合理化、和歌山の山に適した高品質な苗木の生産に向き合っている。井内さんが経営する井内屋種苗園は、100年以上にわたり山林用の苗木生産を続けている。現在は最新の生産設備の導入や改良を進め、効率的な苗木の生産や品質管理のシステム化に注力する。

苗木は、県の林業試験場が管理するスギやヒノキ等の母樹園で採取した優れた遺伝子を持つ種子から育てられる。発芽には温度や湿度、水分量の管理が重要で、わずかな環境の違いが生育に影響する。種子は一定の温度と湿度が保たれた発芽室で管理され、発芽後は育成施設へ移される。育成段階では、光量や水分を調整しながら根と幹をしっかりと育て、山に植えた後も健やかに生長できる苗木に仕上げていく。井内さんは「山の伐採や植え替え予測から受注量を想定しますが、

Column

## 第49回全国育樹祭が開催されます

全国育樹祭は、継続して森を守り育てることの大切さを普及啓発するため、1977(昭和52)年から毎年秋に開催されている国民的な緑の祭典です。和歌山県では初めての開催となります。



お手入れ行事 新庄総合公園(田辺市)

開催日  
2026(令和8)年11月7日(土)

式典行事 白浜会館(白浜町)

開催日  
2026(令和8)年11月8日(日)

公式ホームページ



# 森林の課題に取り組み、価値を生み出すプロジェクト

虫食い材を手仕事で個性にし、熊野の森の未来を守るプロジェクト

## BokuMoku ぼくもく



「木材は貴重な資源です。全て有効活用して価値を守っていききたいです」(榎本さん)。

「熊野の山を守る」という想いに共鳴した育林・製材・設計・製作・家具販売のプロフェッショナルが2018(平成30)年に結集し、立ち上げたクリエイティブユニット「BokuMoku」。田辺市を拠点に「川上(森)」から「川下(消費)」まで一気通貫で担う。家具店の4代目であり、チームの代表を務める榎本将明さんは「虫食いの穴があると建築資材には選ばれづらく、同じ木でも価値が下がります。少しでも虫食いがあるか、その木は廃棄されることが多いのですが、視点を変えることで、市場価値を上げたいという思いがありました」と話す。

「虫食い材」の穴や傷を個性と捉え、デザインで見せ方に工夫を凝らし、自然の風合いや木の温もりを感じられるインテリアに生まれ変わらせる。メンバーの岩見木工所の岩見桂道さんは「虫食い材」は表情が豊か。それを個性として楽しんでくれる人がいることがわかり、とても嬉しいです」と話す。商品を仕上げるには、木の断面に合わせて一つひとつ穴を削って埋める等の作業が必要だが、今後も商品点数や販売ルートを増やす予定だ。積極的に「虫食い材」を活用して山の循環を促し、熊野の森を守りたいというチームの熱い思いがあった。



問い合わせ先

BokuMoku 事務局  
(Re-barrack interior)  
住所 / 田辺市高雄 1-20-33  
電話 / 0739-22-6100



①「虫食い材」は虫食いの穴を削り、パテで埋める等の工程を経て、家具や雑貨に使用される。②木工キットを使った子ども向けワークショップも行い、山を身近に感じてもらう活動も行う。

# 林業を通して未来を拓く、新しいつながり

和歌山の林業

## 次世代へつなぐ

技を学び、継承する人材育成が、途切れない循環を生み出す

和歌山の山を忘れられず転職Uターン  
大学校で知を学び、現場に生かす  
清水森林組合 辻脇奈津実さん  
(林業研修部 修了生)



①現場の状況に応じてその都度先輩が丁寧に教え、チームで安全に作業を進める。②一本ずつ適切な方法を考えながら伐採する。



「山は管理すれば高品質な木が多く育つ。そのためにも林業に携わる人を増やしていきたい」と辻脇さん。

**郷** 里・和歌山の山で遊んだ楽しさが忘れられず理学療法士から転職を決意し、Uターンした辻脇奈津実さん。2024(令和6)年4月から1年間、県農林大学校林業研修部で実践的な技術や知識、林業経営を学び、在学中のインターンを経て清水森林組合へ就職。先輩とチームを組み、木と向き合う日々を送る。林業の仕事は、木を傷つけない伐採や、集材しやすい動線を考えた作業計画を立てるなど、現場での判断が求められる。また、林業は危険と隣り合わせの仕事だと思っていたという辻脇さんは「林業は体力だけではなく、山や木の状況を読み取り、思考して判断する知力も必要な仕事だと実感しています。大学校で学んだ知識が現場で生きています」と話す。

一本の木が育つまでには長い時間がかかる。その循環の中に関われることにやりがいを感じ、現場を任せられる人材になりたいと努力の日々だ。「身近な木製品や建物がどこから来た木なのか、思い浮かべながら山を見てくれる人が増えるようにしていきたい」(辻脇さん)。山を守る技術と経験を受け継ぐ人材の育成が、林業の未来を支えていく。

問い合わせ先

清水森林組合  
住所 / 有田郡有田川町清水 401 番地 3  
電話 / 0737-25-0254



木材市場で木を買い付けて製材し、商品化まで一気通貫のものづくり

## 空美 もくはる

**木** 材の街として長い歴史を持つ熊野エリアに拠点を置く「空美」は、木材の仕入れから製材、加工、製品設計、販売までを一貫して行い、紀州材を多様な形で顧客に届ける。一本の木を用途に応じて切り分け、端材も無駄なく使うことを信条とする。大工として修行後に故郷へUターンした代表取締役・倉谷良太さんは「紀州材は木目が美しい。その美しさを最大限に生かすものづくりにこだわっている」と話す。

近年は環境配慮の観点から木製品への関心が高まり、大手企業から記念品や販促品の制作依頼も増えている。一方で、木に触れる機会の減少や関心の薄れも感じるといふ。木を好きな人が増えれば将来的に人材不足も解消できるとの思いから、仲間とともに小学校



問い合わせ先

株式会社空美  
住所 / 新宮市千穂 1-7-22  
電話 / 0735-29-2227



①作業場に隣接する「新宮原木市場」で木材を買い、乾燥させて加工する。②オーダー家具やオリジナル仕器の注文も多いという。



顧客が希望する名前やロゴの彫刻にも対応する。

で木工教室を行い、木の役割や魅力を伝える活動も続ける。「木材産業で地域を盛り上げたい。高まるニーズに柔軟に答えられるよう人を育て、紀州材をより多くの人に届けることが使命です」(倉谷さん)。

# 伐<sup>き</sup>って、使<sup>っ</sup>て、植<sup>え</sup>て、育<sup>て</sup>る循環型林業と、 品質管理と安全性の追求で次世代へ繋ぐ

和歌山県の山とともに約300年歩み、木を植えて育て、  
製材、プレカット加工まで一貫して行う実践者に、  
紀州材の魅力や品質管理のデジタル化、和歌山の林業の展望を聞いた。

紀州材は強度のほか、色つやの良さも評価されている。



**宮崎知事(以下宮崎)** ◆榎本さんが会長を務める山長商店は、田辺市で約300年の歴史を持つ林業・製材会社です。植林から育林、伐採、製材、さらにはプレカット加工までを一貫して行い、国産材、とりわけ無垢の紀州材に強いこだわりを持っておられます。「木の国」と呼ばれるほど山や森林との繋がりが深い紀州の地で、長年林業に携わってこられた歴史についてお聞かせください。

**榎本会長(以下榎本)** ●山長商店は、江戸時代に紀州備長炭を扱う問屋として創業しました。自ら植えた山を伐り、再び植えるという循環型の林業を始めたのは、父が大学を卒業して戻ってきた昭和10年代のことだと聞いています。昭和

和20年代にはエネルギー源が石油やガス、電気へと移行行き、全国的に薪炭林業からスギやヒノキの造林へと転換が進む中で、当社は昭和26年頃からいち早く拡大造林に取り組んできました。紀州の山で山頂までスギやヒノキが植えられている風景が見られるのは、林道もない山奥まで通いながら、7、10年かけて下刈りを続けてきたからなんです。

**宮崎** ◆高い場所まで隔々に植えられている光景から、ここまで丹念に手をかけてこられた先人のご苦労がよく分かりますよね。

**榎本** ●そうですね。私が社長に就任した1996(平成8)年頃は、住宅づくりが大きく変わろうとしていた時代で、木材を工場であらかじめ指定された寸法や形状に切断・加工するプレカットという技術が全国的に動き出していたんです。そこで当社でも、加工した状態で紀州材を工務店さんや施主さんに使っていたら、山から製材、プレカット、工務店へと繋げていくと考えました。



山長商店では強度や水分量の検査を行った後に出荷する。

## 外材の価格高騰で 国産材が選ばれる

**宮崎** ◆私が幼い頃は、建築現場で長い間作業が行われるのが当たり前でした。ですが、近年ではあつと言間に建物完成するようになり、どのような仕組みなのだろうと不思議に感じていたのですがプレカットという技術を知り、腑に落ちました。それから、戦後に植えられた木々が、今まさに伐採期を迎えていると伺っています。非常に多くのスギやヒノキが「宝の持ち腐れになってしまっているのではないか」といった感覚が全国

# 知事対談

## 榎本 長治 × 宮崎 泉

株式会社山長商店 代表取締役会長

和歌山県知事

# 知事対談

榎本 長治 × 宮崎 泉



## 全国的にも強度に優れた紀州材

**宮崎**◆山長商店がこだわる紀州材の特徴について教えてください。

**榎本**●紀州材は本当に素直な材料です。狂いが少なく優良な構造材として最適です。そんな紀州材の魅力のひとつは圧倒的な強度です。当社では一本一本検査を行い、ヤング係数<sup>※①</sup>Eを用いた機械等級区分により強度別に分類しています。当社のヒノキはE110<sup>※②</sup>が最も多いのですが、これは建築家や学者の方が見ると驚くような数値で、これだけ高い数値がたくさん出る地域は日本でも数少ないです。

**宮崎**◆強度を機械で測定し、数値で表す「見える化」が行われているのですね。

**榎本**●木の強度や含まれている水分量を機械が瞬時に測定し、結果が柱に印字されていきます。消費者や工務店の方はその結果を見て木材の品質を知ることができるといいう仕組みです。ただただ木を太らせてしまうと弱くなり、しっかりと育てると目が細かく強い木材に育つため、育て方に

も気をつけています。地震の問題が色々起きていますが、耐震性の高い建築物を作るひとつの要素として材料の強度は非常に重要です。また、紀州材の魅力はその美しさにもあります。職人が一本ずつ丁寧に磨き上げることで、紀州材の表面はやさしく輝きます。現在ではプレカットによる機械加工が主流ですが、機械では対応できない複雑な部分は、熟練の職人が手作業で仕上げられています。

**宮崎**◆美しさや素直さなど紀州材の魅力がたくさん知ることができたのですが、この魅力ある紀州材をどのように消費者の元に届けるかということも重要なポイントだと思えます。現在行われている取り組みがあればお聞かせください。

**榎本**●やはり紀州材の魅力を知っていただくこと。建築家の方、工務店の方、消費者である住まい手といった全ての方に紀州材を実際に使っていただく。そして紀州材の魅力を広く知っていただくことが最も大切だと考えています。和歌山県は山が多く、林業は重要な産業のひとつです。紀州材を使用することは

材が日本市場に広がっていきました。現在も市場の半分は北欧の木材が占めていて国産材の値段は低下傾向にあるんです。2021（令和3）年頃にウッドショックが起

り、木材の値段が跳ね上がりましたが、現在は元の値段に近いところまで下がっています。最近では、円安であることや海外産の集材材がかなり高くなっていることを踏まえ、より安定している国産材にシフトしているように見えます。

## 急峻な地形のため伐り出しに工夫を

**宮崎**◆和歌山県では現在「伐って使って、植えて、育てる」という循環型林業を進めています。昨年度には林道整備計画を策定し、林道整備を積極的に進めているところです。また、機械化やデジタル技術の導入に着目しながら、安全性にも考慮して作業を進められるよう取り組みを進めています。それから、2017（平成29）年には農林大学校に林業研修部を開校し、実践的な技術や知識をしっかりと身に付けていただいで、即戦力となる林業者の人材育成に取り組んでいるところです。

**榎本**●林道整備に力を入れていただけることは待ち望んでいた施策であり、非常に急峻な地形が多い和歌山県の林業にとって一番大きなテーマではないかと思っています。それから、将来の林業を担う人材を確保していただけることは本当に心強いです。

**宮崎**◆本場に急峻ですよね。以前現場に伺ったときも、ここに木を植



大型機械を使い、一本の木から製材していく。

山を育てることに繋がり、地域社会特に紀南の発展にも大きく関係してくると思っています。

**宮崎**◆県では公共建築物の木造木質化に取り組んでいます。また、民間非住宅建築物についても建築物木造木質化支援事業により紀州材利用を支援し、紀州材の需要拡大に取り組んでいます。

**榎本**●公共建築物の木造化など、木材でできるものは木材を活用しようという県の取り組みは、林業・木材産業にとって非常に大きな支援となっています。



## 榎本 長治 Enomoto Choji

1946年和歌山県田辺市生まれ。早稲田大学卒業後、東京大学農学部で研究生として2年間林学を学ぶ。その後、故郷に戻り、株式会社山長商店に入社し、1996年に社長、2016年に会長に就任。日本林業経営者協会会長など、業界団体の長や政府審議会の委員を歴任。



「YouTube 和歌山県公式チャンネル」対談動画を配信中▶

※注①：ヤング係数とは、木材の変形しにくさを示す強度特性の指標のひとつ。

※注②：全6区分（E50～E150）のうちのひとつ



# 海辺 雑賀崎の

和歌山市の西端にある漁師町・雑賀崎は、家々が斜面に寄り添うように連なり、坂道と細い路地が迷路のように入り組む。ゆったりとした時の流れや吹き抜ける潮風を感じさせる絶景は、日本遺産「絶景の宝庫 和歌の浦」を構成する一部だ。近年、「日本のアマルフィ」とも称される。美しさだけでなく、海と暮らしが近接することにも由来する。遠く淡路島や四国まで見渡せる雄大な海と、日常生活の息づかいが重なり合う港町なのだ。

# わかやま “ツウ”巡り旅

熊野古道～紀伊路～【第3弾 日高エリア】



日高エリアの紀伊路は、古の風情が色濃く残っています。季節や時間で表情が変わるため、何度でも歩きたくなります。鳥のさえずりや風の音に包まれ、昔の人々も同じ道を歩いていたのだと思いを馳せると「ツウ」な熊野古道歩きができるでしょう。鹿ヶ瀬峠から続く約500mの石量は、近世以前に敷かれたままの姿で、熊野古道で現存する最長の石量です。丁寧に敷き詰められた石の連なりからは、先人の多大な労力と歴史の重みが伝わります。



日高広域観光振興協議会カイド  
林由美さん

お問い合わせは  
日高広域観光振興協議会 (0738-24-2911) まで

鹿ヶ瀬峠は、平安時代後期に有田から日高方面へ抜ける近道として整備された。険しい峠だが頂上部は平坦で、かつては茶屋が営まれていた。



**5 千里の浜**  
熊野古道・紀伊路で唯一海岸線を歩ける砂浜。弓状で1.3km 続き、本州有数のウミガメの産卵地としても知られる。  
日高郡みなべ町山内



**6 紀州梅干館**  
梅干し・梅酒作り体験などができる。直売店では梅関連食品を数多く販売し、梅干しの食べ比べができる試食コーナーも充実している。  
日高郡みなべ町山内 1339

熊野古道紹介ページ

和歌山県公式観光サイトでは、紀伊路をはじめ熊野古道の和歌山県主要ルートを紹介しています。全ページがPDFデータでダウンロードできる和歌山県街道マップを掲載しています。



**2 道成寺**  
「安珍清姫伝説」で知られる県最古の寺。千手観音菩薩(本尊)、日光菩薩、月光菩薩の国宝3点を収める。  
日高郡日高川町鐘巻 1738



**3 塩屋王子神社 (塩屋王子)**  
「熊野九十九王子」の一つ。天照大神の御神像が祀られており、別名「美人王子」とも呼ばれる。  
御坊市塩屋町北塩屋 114



**4 切目王子神社 (切目王子)**  
「熊野九十九王子」の中でも特に格式のある王子社の一つである「五躰王子」の一つ。幾多の文献に名を残す。  
日高郡印南町西ノ地 328



職人技で黒竹を最高品質の逸品へと仕上げます



**1 【特産品】黒竹**  
日高町は全国一の黒竹の生産地。独特の艶のある趣から室内や家具の装飾材、垣根、庭の植え込み、芸術作品などに活用される。  
(有) 金崎竹材店  
日高郡日高町原谷 1293

熊野古道は、蘇りの聖地「熊野」へと続く信仰の道です。その中でも紀伊路及び中辺路は、京都を出発し、大阪・田辺を経て熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社、那智山青岸渡寺)を目指し、熊野詣のメインルートとなった参詣道。その行程は往復約600kmに及び、当時の人々はこの長く険しい道のりを、さまざまな祈りや願いを胸に抱きながら、およそ20日から1か月かけて歩いたといわれます。

熊野古道の中には数々の「難所」がありますが、その中でも鹿ヶ瀬峠は、その険しさから紀伊路最大の難所とされた区間。急登が続きますが、かつての巡礼者と同じように、息を切らしながら坂道を登り、峠を越えると、やがて熊野古道に現存する最長の石畳道が現れます。古の風情を色濃く残す道を心静かに歩けば、当時の巡礼者の息づかいが聞こえてくるような錯覚に陥ります。

紀伊路には、鹿ヶ瀬峠のように今も変わらず受け継がれている景観や、王子などの当時の風情が感じられる場所が多くあり、歩きながらその長い歴史に自然と触れることができます。また、街から街へと峠を越えながら田辺を目指す歩き方は、深い山の中を歩き熊野を目指す中辺路とは違った魅力があり、きっと熊野古道歩きの新なる魅力を発見できるはずです。

古の風情が色濃く残る熊野古道



今西晃一監督は2026年も続投する。所属する選手数を増やし、将来的にはセカンドチームの立ち上げも視野に入れる。



2025年シーズンを終えた選手たちは、白熱したミニゲームで今季最後の練習を締めくくった。

### 南紀オレンジサンライズ FC

和歌山県上富田町発の次世代アマチュアサッカーチーム。2025年の戦績は、和歌山県社会人サッカー1部リーグ優勝、和歌山県社会人サッカー連盟杯選手権大会準優勝



申込枠は満員で、計60人の子どもとサッカーを通じた交流を行った。

選手は本気でサッカーに向き合うが、プレーだけではなく、地域が求める役割に応えることも存在意義の一つだ。介護職員としても働くキャプテンの水本龍之介さんは「利用者さんがクラブのグッズを身に付けたら記事を書いたら嬉しい。ボールと真剣に向き合う姿を見せ、試合に勝つことにもこだわり、地域にもプロ意識で応えていきたいです」と前向きな姿勢を見せる。監督の今西晃一さんは「アマチュアでありながら町から公

式に応援されるクラブを他に知りません。選手にはクラブが地域に価値を残す方法を考え、こどもたちには将来の目標と想ってもらえる人物になって欲しい。多面的に南紀熊野エリアを背負えるクラブに成長させたいです」と話す。

選手らが目指すのは町のイベントに参加して名前や顔を覚えてもらい、日常生活でも声を掛けられ、試合を応援してもらうこと。日々の積み重ねが、地域と共に長く歩むクラブを作る。

# well-being 和歌山

みんなが健康的で幸せな状態であるウェルビーイングは、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた和歌山そのもの。そんな和歌山で生まれた「ウェルビーイング」をご紹介します。

選手はクラブが斡旋した地元企業などで働き、地域の人手不足解消も担っている。

## 【南紀オレンジサンライズFC】

町とサッカークラブが共に走り、新しい価値を生み出す存在へ

# 和

歌山県の南西部に位置する上富田町は、「熊野古道」で知られる熊野エリアへの入り口を意味する「口熊野」と呼ばれる町だ。比較的温暖であり、スポーツ施設も整っているため、全国からプロのスポーツチームなどが合宿を目的に集まる。同町を拠点にするサッカークラブ「南紀オレンジサンライズFC」は、2022（令和4）年に活動を開始。選手の多くは20代で発足当初は移住者を中心だったが、知名度の上とともに県内出身者も増加傾向にあるという。クラブの運営会社社長・道浦具仁子さんは「私自身がクラブのサポーターです。頑張る選手をサポートしつつ、一緒に戦っている気持ちです」と話す。

選手は働きながらサッカーをし、地域行事やこども向けの活動にも積極的に関わる。2024（令和6）年9月、同町は企業版ふるさと納税で支援する協定をクラブと結び、町を挙げて応援する姿勢を示した。「町も地元企業もブレインのような存在です。皆さんが自分ごととして考え、意見や提案をくださいます。紀南地域を盛り上げるため、試合の勝敗だけでなく、地域おこしができるクラブにします。南紀熊野エリアにある他市町村とも連携できるよう奮闘中です」（道浦さん）。

2026年1月18日、地域活動の一環として3～6歳を対象にした

### 「第一回 よってって南紀の台ホール『運動会』」を実施。



# 今号の「和」題

旬の和歌山情報を  
お届けします!

和歌山県立近代美術館

## 企画展「万博のレガシー —解体と再生、未完の営為を考える—」開催中

2025(令和7)年、「いのち輝く未来社会のデザイン」を統一テーマに「日本国際博覧会(大阪・関西万博)」が開催されました。

本展は、創造と解体をくりかえす万博の特異な祝祭空間について2部構成で振り返ります。第1部【万博と日本 グローバリズムの光と影】では、日本との関わりに重点をおき、19世紀の初期万博から「人類の進歩と調和」を統一テーマに掲げた1970年大阪万博開催までの歴史や会場空間の変遷をたどります。

第2部【メタボリズムと共生 黒川紀章のEXPO'70を中心に】では、1970年大阪万博において「メタボリズム(新陳代謝)」という建築理念をキーワードに複数のパヴィリオン設計に関わり、1990年代に当館の設計を手がけることになる建築家・黒川紀章の仕事を、今回の万博の統一テーマにも連なるその先見性と合わせて紹介します。

さらに、大阪・関西万博の和歌山ゾーンに出品された《トーテム》等を特別展示しています。

会期は、2026(令和8)年5月6日まで。この機会にぜひご来館ください。



開館時間: 9:30~17:00  
(入場は16:30まで)  
休館日: 月曜日(5月4日は開館)  
4月1日(水)~4月5日(日)  
(空調改修工事のため)  
入館料: 一般 600円  
大学生 330円  
※高校生以下、65歳以上、  
障害者手帳をお持ちの方は無料

①大阪・関西万博に出品したアートワーク「トーテム」②第1部では1970年大阪万博のポスターも展示

問い合わせ先  
和歌山県立近代美術館  
電話 / 073-436-8690



交通アクセス ●羽田空港から  
熊野白浜リゾート空港まで約1時間10分  
●和歌山市まで  
関西国際空港からバスで約40分  
大阪市内中心部から車で約1時間

### 取材をバックアップします!

和歌山県では、メディア関係の皆様へ取材への積極的な協力・現地情報の提供等を行っています。

お問い合わせ ■和歌山県広報課  
TEL: 073-441-2032 FAX: 073-423-9500  
e-mail: nagomi-waka@pref.wakayama.lg.jp  
■和歌山県観光連盟 和歌山県東京観光センター  
東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館 B1F  
TEL: 03-3216-8000 FAX: 03-3216-8002  
e-mail: tokyo@wakayama-kanko.or.jp

▶和歌山県観光連盟フォトライブラリー(写真貸出)  
<https://www.wakayama-kanko.or.jp/business/photos/index.html>  
▶和歌山県 PR 動画(動画素材貸出)  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/media/>  
▶和-nagomi-バックナンバー  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/000200/nagomi/>

### ふるさと和歌山応援寄附

ふるさと和歌山応援寄附を通じて和歌山県を応援してくださいませんか。  
下記3種類の寄附金を受付しています。  
●わかやま未来応援型(返礼品なし) \*令和7年度開始  
●県産品応援型(返礼品あり) ●教育環境充実型(返礼品なし)  
※詳しくは、ふるさと納税サイトをご覧ください。

ふるさと納税で  
元気な和歌山に!

和歌山 人・もの・地域  
**和**  
nagomi

2026 vol.59



「和-nagomi」はリサイクル適性 A ランクの材料及び植物油を含有した印刷インキを用いて制作しています。

### 掛け合わせの妙を探せ!

高校生 × 地域活動及び  
商品開発プロジェクト  
りら創造芸術高等学校「りらファクトリー」



2025(令和7)年はブドウハゼの収集にも部員が初参加し、地域活動の幅を広げている。



2025(令和7)年9月、高野山金剛峯寺へ榎油の奉納式を行った。「豊かな空間で油に火が灯ると感動しました」と部員たち。



ブドウハゼの葉と榎の精油を使用した「マルチバーム キノミノリ」。



◀ブドウハゼの実

紀美野町の里山にある、りら創造芸術高等学校。「りらファクトリー(地域おこし部)」は、地域特有の産物で町を盛り上げる活動を続けている。特に、和歌山の特産物産物の利活用注目し、「和ろうそく」の原料になるブドウハゼや、高野山の灯明油として重宝された「榎」を使った商品の開発を行う。常緑針葉樹である「榎」は、実に脂肪分を多く含み、貴重な生活資源として利用されてきた。かつて町内で栽培していたハゼノキの品種の一つであるブドウハゼは、栽培する人が徐々に減少していたが、2017(平成29)年、枯死したとされていた原木を生徒が地元住民の聞き取りをもとに発見。その実から作られる天然製法の蠟の希少価値を知った部員たちは、コスメ商品「マルチバームキノミノリ」を開発し、商品化した。町内の栽培復活への気運上昇に

一役買っている。「榎」の実を原料とする油の製造も途絶えていたため、榎の実を収集して油を抽出し、約150年ぶりに高野山金剛峯寺へ奉納した。顧問の志茂梨恵教諭は、「活動の方向性は大人が答えを用意せず、生徒自身が意味を見出すまで待つこと」と話す。自分たちで考え、悩み、地域の人と対話を重ねるからこそ、熱意は本物になるという考えからだ。生徒たちは「地域の自然がより好きになりました」「山には宝物が埋まっていると気づきました」と話す。その熱心な取り組みにより、地元で榎を使った商品販売を始めようとする人が現れるなど、地域全体に変化が起きているという。「地域活動を高校生時代の思い出づくりで終わらせず、確かな地域産業として根付かせていきたい(志茂先生)。生徒たちの活動がきっかけとなり地域へ波及し、本物の産業再生へと繋がっている。

## 消えゆく「地域の宝」を活用

### 生徒の熱意が地域の火付け役

りら創造芸術高等学校

住所 / 海草郡紀美野町真国宮 56  
電話 / 073-497-9111



# わかやま産品 テロワール

vol.03

テロワールはフランス語で「風土、土地」を意味する「terre」から派生した言葉。地理、地勢、気候、こだわりの栽培法や確かな技術により栽培される農作物の生育環境全体を指す。和歌山県の恵まれた自然や気候、土壌環境、生産者のこだわりが集結した産品のテロワールにも注目し、それぞれの魅力を再発見してみよう。



北山村の“じゃばら”収穫量のうち6割を担う村営農園の管理責任者・宇城公理さん。

日本唯一の飛び地の村で発見された柑橘  
まろやかな酸味と、ほのかな苦みが独特



## じゃばら



奈良県と三重県に囲まれた日本唯一の飛び地の村「北山村」は四方を山に囲まれ、北山川が村を貫く。

「じゃばら」栽培の歴史は、村内の家の庭で見つかった一本の木から始まる。「他の柑橘類と異なる味わいがある」と噂になり、村が専門的な調査や分析を実施。新種と判明し、1979（昭和54）年に種苗登録された。「じゃばら」の名前は「邪気を払う」ほど酸味があることに由来する。村が主導して生産体制を構築し、現在は北山村全体で8ヘクタール、約5000本を栽培する。年間収

量はおよそ1100トンで、生産量は日本一。村営農園の管理責任者・宇城公理さんは「村営農園の果実には種がほとんどなく、当時の方々は原木から接ぎ木で増やしたと聞いています。「じゃばら」は酸味もありますが糖度も高く、味のバランスが良いことが特徴で、村内で一定の生産量を維持できるよう努めています」と話す。



「じゃばら」はミカン属の柑橘類。ゆずよりも果汁が豊富で、北山村では昔からさんま寿司などの食酢にも利用する。

北山村は朝晩の温度差があり、季節によっては雲海が出現するほど湿度が高い。風が抜けにくい地形は決して柑橘栽培の適地とはいえない自然環境だ。「病気の発生も多いため、栽培方法は近隣の柑橘農家や果樹試験場の知見を取り入れています。薬剤散布を極力減らし、除草剤を使わないため、夏は草刈りの繰り返しで苦労しますが、畑の草は土壌流出も防いでくれます」。皮の残留農薬はほぼなく、果汁も皮も全て加工され、さまざまな商品が生まれる。

「じゃばら」には、フラボノイドの一種であるナリルチンが豊富に含まれる。「20年ほど前、花粉症対策としても注目されると多くのメディアで紹介され認知度が上がり、村を支える産業に発展しました。村には移住者も多く、繁忙期には収穫作業などに携わっています。今後も村がチームとなり、「じゃばら」を守ります」と宇城さん。一本の原木から始まった「じゃばら」は、これからも村の産業として大切に守られていく。

### ▶ 北山村のご紹介

北山村は紀伊半島の中央部に位置し、東西20km、南北8km。村の93%を山林が占め、北山川が悠々と流れます。林業と川の文化に支えられた村の主な産業は「北山川の筏下り」と、「「じゃばら」の生産」。



### ▶ じゃばら加工品

果汁、ポン酢、キャンディーなど多彩な加工商品がある。北山村の道の駅「おくとろ」内の売店でも購入できる。



## おいしく食べて 和歌山モール

「食の宝庫」である和歌山県で、作り手たちが心を込めて生み出したおいしい「食」。それらを集めて和歌山県食品流通課が運営する紹介サイトです。豊かな自然環境と、さまざまな発酵食品のルーツとなった和歌山県の「食」をぜひご体験ください。

